

## 〈参考資料〉

### 県外の食品リサイクル事例

# 【三重県】ユニー(株)ほかによる再生利用事業計画

本再生利用事業計画では、店舗から排出される食品循環資源を肥料の原材料として利用、製造した肥料を利用して生産した農産物をユニー(株)の店舗で販売しています。



# 【北海道】 山崎製パン(株)ほかによる再生利用事業計画

農林水産省  
食料産業局

本再生利用事業計画では、山崎製パン札幌工場から排出される食品循環資源を飼料の原材料として利用し、製造した飼料を利用して生産した鶏卵を社員食堂の食材として利用しています。



# 富山グリーンフードリサイクル株式会社

農林水産省  
食料産業局

- 食品廃棄物をメタン発酵処理し発生したメタンガスは、近隣の事業者者に販売し、熱利用に利用される。食品リサイクル法による登録再生利用事業者として登録。
- 富山市では、「脱焼却・脱埋立」による循環型まちづくりを目指して、平成18年度から「燃やせるごみ」の中に含まれる「生ごみ」を分別回収しリサイクル処理を行うことにより、ごみの減量化・資源化を推進。現在、13地区で生ゴミリサイクルを実施。

## 施設概要

- 稼働開始 平成15年
- 総事業費 約18億円
- 処理量 約40t/日  
産業廃棄物、事業系一般廃棄物、家庭系一般廃棄物  
(富山市内13地区)
- バイオガス利用機器 発電機 30kW×3基
- 電気の利用 自家利用
- バイオガスの利用 販売 (熱利用)
- 消化液 固分 処理委託  
液分 排水処理
- 食品廃棄物の受入先 食品製造業、ホテル、旅館、食品スーパー、コンビニエンスストア、家庭ゴミ

## 取組及び施設の特徴

- 食品廃棄物の分別  
破袋分別機を導入しているため、異物除去が可能であり、多少の異物混入には対処できる。包装されたままの食品残さも受け入れ可能。卵殻、骨、カニ殻、貝殻など食べられないものと廃食油を除く食品残さを受け入れ可能。
- 食品リサイクル法上の登録再生利用事業者として登録



施設全景



破碎分別機



メタン発酵槽・ガスホルダー



発電機

## バイオエナジー株式会社 城南島食品リサイクル施設

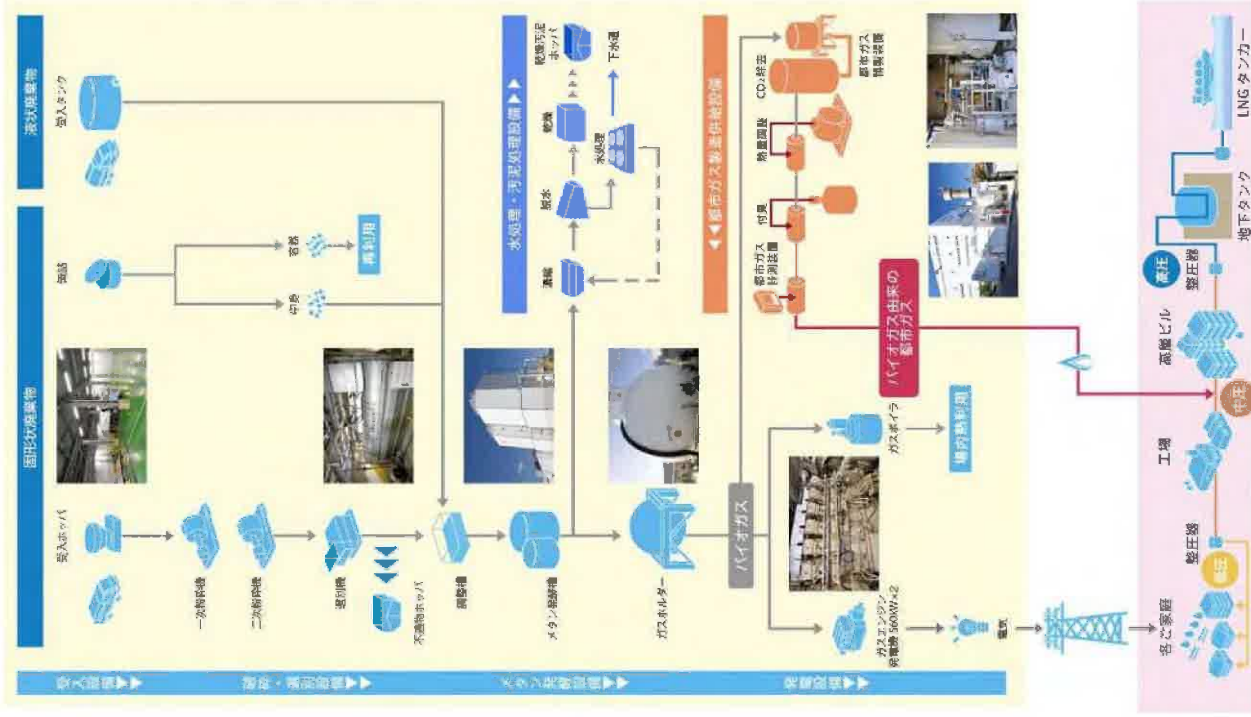
- バイオエナジー株式会社城南島工場は、バイオガスを用いた発電（PPS事業者への売電）と熱利用（処理場内利用）に加え、バイオガスを精製して、燃料として都市ガスに供給する日本初の取組を行っている。
- 食品リサイクル法による登録再生利用事業者の認可も取得。

### 施設概要

- 稼動開始 平成18年4月
- 総事業費 約38億円
- 処理量 固形廃棄物125t/日 液状廃棄物5t/日  
産業廃棄物、一般廃棄物
- バイオガス利用機器 発電機 560kW×2基
- 電気の利用 自家利用及びFIT売電（PPS）
- バイオガスの利用 売ガス（東京ガス(株)）、処理場内の熱利用等
- 食品廃棄物の受入先 食品製造業、スーパー、飲食店等

### 取組及び施設の特徴

- 食品廃棄物の分別  
破袋分別機が導入されているため、異物除去が可能であり、分別が不十分な包装されたままの食品廃棄物も受入可能。
- バイオマス発電  
1日当たり26,880kWh(2,600世帯相当)を発電し、FIT制度により電力事業者へ販売。
- 都市ガスの供給  
バイオガスから都市ガスを精製して東京ガス（株）に販売。1日当たり2,400m<sup>3</sup>(2,000世帯分)を供給。
- 年間7,080tのCO<sub>2</sub>削減効果（森林換算921ha = 東京ドーム197個分に相当）
- 24時間365日稼働
- 食品リサイクル法上の登録再生利用事業者として登録



事業フロー図